オリーブニュース

北海道特別教区女性の会（オリーブの会）第12期　第2号
代表　近藤雅子　　2013年9月30日発行

大震災被災地見学会（復興ツアー）に参加して

札幌礼拝堂　佐藤順子

9月6日(金)午後1時、仙台駅から東日本大震災ルーテル教会救援として奉仕されている野口牧師の運転で二時間、石巻の仮設、追波川（おっぱがわ）河川コミュニテイーセンターへ。そこでは全国のルーテル教会から送られたお菓子などを頂きながらお喋りをしあう「お茶っこサロン」が開かれています。そこでつるし雛、布草履などを作っていて、今回手作りのケーキ、ゼリー、漬物などが用意され、笑顔で迎えてくださいました。

被災の体験を話してくださった服屋を営んでいた竹山さん。ご夫婦でお寺に避難し、後から来る方たちを誘導していたが、その場所は海抜0メートルの位置にあり、大きな波に流された。

幸い民家の屋根にしがみついたが全身ずぶ濡れの体に雪が降って来、寒さと睡魔と闘いながら一夜を過ごしました。実際凍死された方も多かった。次の日、惨状を目の当たりにしながら濁った水で体を洗い、避難所にたどり着き、冷えたおにぎり半分を食べて何とか生き延びられたと話して下さった。夫人は2日後ご遺体で見つけられたと。対岸の家々は家が残っていてうらやましいと正直な気持ちを話されました。

別な竹山さんは大川小学校に通っていた小学生と高校生のお孫さんとそのおかあさんを亡くされたという、つらい体験を話してくださった。逆縁の絶望感は想像に余りあり、止めどなく涙が溢れました。生きる気力も何もかも無くしていた時につるし雛の話を聞き参加。もともと手仕事に秀でた方で色合わせのセンスも良くパッチワーク等を作っていた方だったので、細かい作業をし、ひとつひとつ仕上げていくことで少しずつ気持ちがほぐれていったのだそうです。

また別な方は、お孫さんの面倒を見るためにたまたま自宅を留守にしていて助かり、自宅は跡形もなく流されたと人づてに聞いた。2年半経つけれどもいまだに自宅のあった場所に、行けないでいる。ふさぎ込んでいた日々だったけれどルーテルさんがいてくれて救われた、ルーテルさんが居てくれなかったら精神的にどうなっていたかと話されました。「ルーテルとなり人」の働きが、被災された方たちの心の支え、癒しになっていたのだと改めて知らされました。

そのようなお一人お一人の気持ちのこもったつるし雛が、今「被災地を忘れない、忘れていない」をテーマに全国で巡回展が開催され、10 月には北海道を回ります。つるし雛を見て被災地の人達に心を寄せる。また、体験された方のお話をじかに聞くということがとても大切と思いました。話すことでご自分の生きている意味を見出そうとされているのではないかと私は強く感じました。今被災地では多くの方の訪問を待ち望んでいるそうです。

全校生徒 101 人の小さな小学校大川小学校へも行きました。寒さの中一時間近く校庭に立たされ判断を待っていた子供たち、近くの高台を目指して歩き始めた所に両側から津波が押し寄せて一気に 94 人の子どもと教職員が流されました。その威力は凄まじく、鉄骨はむき出しになって折れ曲がりコンクリートの野外舞台もボロボロ。校庭の続きに裏山があるのに、なぜそこに登ってくれなかったのかと、親御さんの無念さは今裁判の形で争われています。

次の日は仙台から車で 2 時間半の南三陸町志津川へ。あの日、防災対策庁舎から女性職員の必死に叫ぶアナウンスが響いていました。「大津波が来ます。今すぐ高台に避難してください」その瞬間、防災センタービル屋上に避難して、ここなら大丈夫と集まった沢山の人達もろとも大津波が襲いかかりました。そして全てが一瞬のうちにさらわれてしまいました。建物は鉄骨の骨組しか残っておらず、外階段はへし曲り、塩水で赤茶けた様は爆撃でも受けたような無残な姿で残っています。あまりの非情さに言葉もなくただ涙するばかりでした。

美しい三陸の町、人々の営みが根こそぎ奪われてしまいましたけれども、2 年半を経て明るく再生して行こうという気概も感じられました。仮設商店街では新鮮な海産物が並んでおり、ちょっと奮発し、ウニ丼をたべました。これも復興手助けの一環ということで・・・？ここでは、こりこりと歯触りのいい三陸わかめ（塩が少なくすぐ戻ります）、香りのいい焼海苔等良いものが安く売っていました。これ等は、教会でまとめてお取り寄せ出来るのではと思います。復興事業も進み大型ダンプが行きかいますが、人手不足などで遅れがちです。東京オリンピックが決まるとさらに遅れるのではと野口先生は懸念されていました。

一千年に一度という未曽有の大災害によって、2 万人ものかけがえのない命が失われ、思い出とともにあったものをすべて失った方々が北海道に住む私たちのすぐ近くにおられます。

忘れてはいけない。様々な形で今後も「となり人」として，長くかかわっていきたいものです。

１０/４～２７　つるし雛　巡回　＜札幌→帯広→函館＞

全国から寄せられた生地を使って、東北大震災の被災地の方々が作られた、祈りの“つるし雛”が全国を巡っています。札幌では、めばえ幼稚園に飾って教会・幼稚園・教会学校の皆さんに見て頂くよう準備します。また一日神学校の昼食会場ともなりますので、是非ご覧ください・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

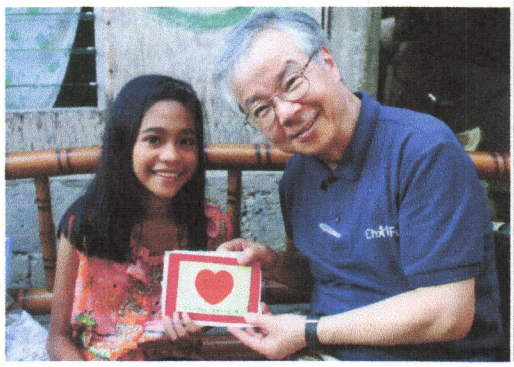
…１０/１３（日）一日神学校前日は「女性の会交流夕食会」　18 時から　まつじんで…

参加予定約３０名、ほっ、会場が狭く感じられます。　神大の原島先生からお話を戴いた後、夕食会に入ります。前日など札幌の教会学校や札幌北、NRK などでお話し下さる「となりびと」の野口勝彦牧師も参加、直接被災地について伺うことも出来ます。女性会連盟会長鈴木直子さん、神大後援会会長竹内茂子さん（元連盟会長）も参加。神大の先生方もご一緒です。豊かな時となりますように。

チャイルド・ファンド・ジャパンの私たちの新しい里子エライザちゃん
そして立派に成長を続けるコリィンちゃん

Our Fair Ladies

札幌教会CFJ担当　松島直子



コリィンちゃんと小林毅 CFJ 事務局長

エライサちゃん（新チャイルド）

この微笑みの向こうには、何があると思いますか？
単にカメラに向かって笑っているのでしょうか。そうかもしれません。もしかしたら、楽しいひと時を過ごしていて笑っているのかもしれません。状況が何であれ、きっと二人の瞳の向こうには、大きな夢と未来があることはまちがいありません。

コリィンちゃんは私たちの数年にわたる支援に感謝をしながら、優秀な成績で次のステップへ力強く踏み出しました。エライサちゃんは、まさに今、自分の将来に向かって勉強に励んでいます。2人の小さなレディの笑顔が象徴するものは、まさに希望だと思いませんか？その希望は、コリィンちゃんとエライサちゃんの“生きる力”なのです。

海の向こうのチャイルドを支援しながら、自分の目の前にいる子供たちもまた、心から笑えるように、希望をみつめられるように、どの子供にも寄り添える大人でいたいと思います。マイフェア・レディのごとく、これから素敵な女性にはばたこうとしている私たちのチャイルド。2人の笑顔が発信するものは、とてもとても大きいと思いませんか？

初めてのルーテル昆布担当して、第１回目の作業を終えました！

昆布担当　梅原裕子（札幌教会）

北海道特別教区女性の会の活動のひとつである「ルーテル昆布作業」が、9月10日（火）に札幌教会札幌北礼拝堂にて行われました。全国の教会、施設、個人の方々からの注文数も増えて、作業も９月と10月と２回に分けて行っています。

札幌教会札幌礼拝堂・札幌北礼拝堂・新札幌礼拝堂・恵み野教会と４教会から牧師先生、神学生も含めて32名が集まってくださいました。

ルーテル昆布は厚岸産の天日干しで、林敏昭さん（釧路礼拝堂－岩瀬姉の甥）に注文をしています。

昆布を詰める袋にあわせて裁断してもらった昆布をパック詰めする作業。１袋は100グラム入りのため、計量担当者は100グラムになるように昆布の微調整も手慣れたものです。１袋ずつ乾燥剤を入れて封をすると、注文数にあわせてダンボール箱・パック袋に詰めて発送していきます。

この日は、1208パック・50個の発送を終えることができました。

作業を終えて昼食タイム。おにぎりと手作り惣菜(とても、おいしい味でしたよ！)を味わいながら楽しい交流の場になります。久しぶりに顔をあわせた方々との近況報告や各教会の様子など・・・　皆様の笑顔が輝いていました。

女性の会の活動として20年間継続していることを思うと、作業を快く引き受けてくださる方々や全国から注文してくださる方々に支えられ、祈られて歩んできていることを深く感じることができました。初めての昆布作業経験でしたが、皆様の手際の良さに感動し、心も満たされた一日になりました。

☆チャイルド　ファンド　ジャパン支援金に　プラスαの御協力を！

今年は４月に不足分10,261円を一般会計から立替送金しています。

この資金を補うため、札幌礼拝堂では10月に豚汁食堂の収益を献金する予定。

☆教区女性の会　これから

９/18～19、女性会連盟の合同役員会が開かれ近藤代表が出席しました。連盟からすでに各女性の会宛てに６月の役員研修会と役員会の報告書が届いていると思いますが、連盟の抱える様々な課題を小委員会として各教区が受け持ち、原案を作ることになりました。北海道は東教区と一緒に「総大会」について取組みます。年内に教区で試案作成、３月には東教区とすり合わせ、４月末か５月前半に連盟にまとめたものを提出。このため、来年１月か２月に資料を整え道内の女性の会の合同役員会を開き討議したいと思います。日程は後日調整の上ご連絡しますが、今後の連盟のあり方を方向づける大切な役割。皆でよく検討していきましょう。よろしくお願いします。　**☆ 11月教区女性の会役員会開催予定　ご提案お寄せ下さい！**

@あとがき

大震災により生活基盤を失った地は、新聞TV等で見たり読んだりしただけではわからなかった地形・距離観の中で簡単にはいかない復興の姿を見せていました。「忘れないでいて下さい。覚えていて下さい」とおっしゃった仮設の方のことばは今後の指針ともなりました。（MO記）

記事のご提供は　近藤まで:FAX 011-663-8933　　e-mail: k-masako@ba2.so-net.ne.jp